

平成28年度10月入学
平成29年度4月入学

福井大学大学院工学研究科
博士後期課程
学生募集要項

(社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜を含む)

平成28年5月

創造力、実践力。



国立大学法人

福井大学

UNIVERSITY OF FUKUI

日 程 概 要			
	平成28年度10月入学	平成29年度4月入学	
		第1次募集	第2次募集 ※
出 願 期 間	平成28年8月22日(月)～25日(木)		平成29年2月3日(金)～10日(金)
選 抜 期 日	平成28年9月5日(月)		平成29年3月1日(水)
合 格 発 表	平成28年9月14日(水)		平成29年3月7日(火)
入学手続書類の送付	平成28年9月14日(水)	平成28年11月上旬	平成29年3月7日(火)
入学手続期間	平成28年9月23日(金)～28日(水)	平成28年11月14日(月)～17日(木)	平成29年3月13日(月)～16日(木)

※本学生募集要項は第1次募集と第2次募集の募集要項を兼ねており、出願書類は共通となっています。
 なお、第2次募集は第1次募集の定員充足状況により実施しない場合があります、第2次募集の実施の有無、募集定員については、平成28年12月上旬に本学ホームページでお知らせしますので必ず確認してください。

目 次

I. アドミッション・ポリシー	1
II. 共通事項	
1. 募集人員	4
2. 出願期間	4
3. 障害のある入学志願者の事前相談	4
4. 合格者発表	4
5. 入学手続等	5
6. 生活支援制度	6
7. 長期履修学生制度	6
8. 課程の修了及び学位の授与	6
9. 安全保障輸出管理について	6
10. 個人情報の利用	6
III. 一般選抜	
1. 出願資格	7
2. 出願手続	8
3. 選抜方法等	10
IV. 社会人特別選抜	
1. 社会人特別選抜の概要	11
2. 出願資格	11
3. 出願手続	12
4. 選抜方法等	14
V. 外国人留学生特別選抜	
1. 出願資格	15
2. 出願手続	16
3. 選抜方法等	18
VI. 工学研究科博士後期課程案内	19
VII. 学生募集要項等の請求方法	26

本研究科所定用紙（綴じ込み）

- | | | |
|-------------------|----------------|-----------------|
| ・ 入学志願票 | ・ 写真票・受験票 | ・ 修士学位論文要旨 |
| ・ 研究業績調書(その1・その2) | ・ 研究計画書 | ・ 推薦書(社会人特別選抜用) |
| ・ 受験承諾書(社会人特別選抜用) | ・ 出願資格審査調書 | ・ 振込依頼書 |
| ・ 封筒(受験票等送付用) | ・ あて名票・入学願書受付票 | |

<注意>

- ・ 本入試に関するすべての事項は、志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。
- ・ この学生募集要項以外に重要な通知がある場合は、本学ホームページの「受験生の方へ」内でお知らせします。
 [福井大学ホームページ <http://www.u-fukui.ac.jp/>]
- ・ 電話での照会は、祝日及び年末年始を除く、月～金曜日の9:00～17:00に、学生募集要項を手元に置き、必ず志願者本人が行ってください。

I. アドミッション・ポリシー

－人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的－

工学は、科学技術の創造を通して、人類の幸福に寄与する役割を担う。工学研究科では、確かな専門知識と高い倫理観を有し、自然や環境と調和した人間社会の豊かな発展に貢献できる高度専門技術者や研究者等を養成する。また、地域の研究拠点となることを目的に、基礎的研究から最先端技術の開発まで、工学に関わる幅広い学問分野の教育研究を推進する。

○総合創成工学専攻

専門分野における深い知識とともに、広い知識と見識に支えられた能力を発揮し、現場におけるさまざまな問題・課題を解決する、あるいは解決に向けて積極的に取り組むことのできる能力を育成する。

それぞれの専門分野あるいはその関連分野で活躍すると同時に、新しい分野を開拓し、自ら積極的に新技術の研究・開発に取り組むことのできる能力を育成する。

高度専門技術者・研究者として守るべき倫理や負うべき社会的責任並びに起業の可能性を追究する意欲や国際的な環境での事業の開拓などに取り組む積極性を涵養する。

・物理工学講座

物質が関与する様々な物理現象の理論的、実験的研究を基盤とした教育を展開することによって、現代科学技術の基礎をしっかりと身に付け、将来、企業や大学、国公立の研究機関など様々な分野で物理的基礎とその工学的応用をつなぐ橋渡しとしての役割を積極的に果たすとともに、高度な技術革新にも柔軟に対応できる創造性豊かな研究者を養成する。

・分子工学講座

無機、有機、高分子など広範な分野において、物質の構造とその機能性の関係を分子レベルで明らかにし、様々な高機能性材料を設計・合成する独創的な研究を推進するとともに、これに必要な優れた研究・開発能力をもつ豊かな創造性を備えた研究者を養成する。

・生物応用化学講座

地球環境中に存在する多様な物質や生物が示す諸現象、又はそれらがもつ諸機能を原子分子レベルで科学的に解明する能力を養うとともに、最新で高度な専門知識を習得して、新規で高機能性を有する材料を自ら開発し、世界的水準で先端研究ができる創造性豊かな研究者及び高度専門技術者を養成する。

・物質加工学講座

物質が有する機能性、加工性、経済性、安全性などの特性を最大限に活用する科学技術を確立し、国際的に通用する高度な専門的知識・能力を持つ高度専門技術者や創造性豊かな研究・開発能力を備えた研究者等を養成する。

・知識情報システム講座

知識情報システムの分野を通して人類の幸福と発展に寄与することを願い、崇高な倫理観と創造性豊かな優れた研究・開発能力をもつ研究者、高度な専門的知識・能力をもつ技術者、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者を養成する。

・電子システム講座

電子材料，光エレクトロニクス，半導体デバイス，エネルギー変換・伝送システム，制御システム，情報通信システム，システム工学等の専門教育ならびに研究開発を通して，リーダーシップを発揮でき，創造性豊かな研究開発能力と国際水準の専門知識を有する研究者等を養成する。

・エネルギーシステム講座

高度なコンピュータ利用技術を駆使して，メカニカルシステムのダイナミクスおよびエネルギー移動現象の解明さらに制御のインテリジェント化による高効率メカニカルシステムの実現を目指す研究を行う。それらを通じて，エネルギーやシステム制御に関する高度な専門知識を備えた創造性豊かな優れた研究・開発能力をもつ研究者等を養成する。

・建築都市システム講座

建築から都市，さらに広い地域にわたる社会基盤，環境を自然科学的および社会科学的方法によって理解し，設計手法によって総合するためのシステムを統合的に教育研究することを通して，高い倫理観をもって社会の発展に寄与し，創造性豊かな研究・開発能力をもった高度専門技術者，研究者，教育者等を養成する。

・繊維先端工学講座

高性能・高機能繊維材料の創成を基盤とした総合的な教育・研究を推進し，生活の豊かさを追求する科学に情熱を傾け，社会の変動に対応できる実践力および国際的倫理観を有し，創造性豊かな研究・開発能力をもつ大学教員と研究者等を養成する。

・原子力・エネルギー安全工学講座

原子力およびエネルギーに関する問題に対して安全・共生という観点から学際的・学術的にアプローチし，さまざまな学問分野を基盤とする総合的で実践的な教育を通して，創造性豊かな研究を高い倫理観を持ちながら自立的に遂行できる研究者を養成する。

－ 求める学生像 －

総合創成工学専攻	「学際性・実践力を備えた高度専門技術者・研究者を目指して」 1.ものづくりを通して，社会や地域に貢献したい人 2.社会における技術者の使命と役割を理解し，自立的に勉学に取り組むことができる人 3.幅広い工学分野に関心を持ち，高度な専門性を有する技術者・研究者を目指したい人
----------	---

－入学者選抜の基本方針－

工学研究科博士後期課程の入学者選抜方法として、一般選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜を行う。

一般選抜では、筆記試験（英語）、口述試験、書類審査の結果を総合して判定する。口述試験は、志望する研究分野に関連する科目、修士論文、研究計画等の内容について行う。

外国人留学生特別選抜は、国費外国人留学生又は私費外国人留学生として入学を希望する者で、成績優秀な者について、学力検査を免除し、口述試験及び書類審査の結果を総合して判定する。口述試験は、修士論文、研究計画書等の内容及び外国語（英語、日本語のうちから母語を除く1か国語）について行う。

社会人特別選抜では、企業等に勤務している者を、所属長からの推薦に基づき、口述試験及び書類審査の結果を総合して判定する。口述試験は、修士論文、研究業績調書、研究計画書等の内容について行う。

Ⅱ. 共 通 事 項

1. 募集人員

【平成28年度10月入学】

専攻名	募集人員
総合創成工学専攻	若干名

【平成29年度4月入学】

専攻名	募集人員
総合創成工学専攻	22名

※募集人員には、社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜の若干名を含みます。

※4月入学における第1次募集の結果によっては、第2次募集を行わない場合があります。

なお、第2次募集の実施の有無、募集定員については、平成28年12月上旬に本学ホームページでお知らせしますので必ず確認してください。

2. 出願期間

平成28年度10月入学 平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年8月22日(月)～25日(木)	平成29年2月3日(金)～10日(金)

- (1) 郵送の場合は書留郵便とし、封筒の表面に「工学研究科博士後期課程入学願書在中」と朱書の上、**出願期間最終日の17時まで**に必ず到着するよう十分配慮し送付してください。ただし、期間後に到着した出願書類等のうち、出願期間最終日の2日以前の発信局日付印のある書留速達郵便に限り受理します。
- (2) 持参の場合の受付時間は、9時から17時(土・日を除く)までです。ただし、検定料の納入は必ず所定の手続により行ってください。
- (3) 出願期間終了後に受験票及び試験室案内を送付します。選抜期日2日前までに受験票が到着しないときは、本学入試課に問い合わせてください。

3. 障害のある入学志願者の事前相談

本研究科入学志願者で、疾病・負傷や身体障害のために、受験上及び修学上の配慮を希望する者は、出願期間開始14日前までに本学入試課へ申し出てください。

ただし、期限後に不慮の事故等により身体に障害を有することとなった場合には、速やかに相談してください。

4. 合格者発表

平成28年度10月入学 平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年9月14日(水)10時	平成29年3月7日(火)10時

本学入試課掲示場(裏表紙の案内図参照)及び本学ホームページ(<http://www.u-fukui.ac.jp/>)の「受験生の方へ」内に合格者受験番号を発表するとともに、合格者あてに合格通知書を送付します。なお、電話による照会には一切応じません。

5. 入学手続等

平成28年度10月入学合格者、平成29年度4月入学第2次募集合格者には合格通知書とともに、また、平成29年度4月入学第1次募集合格者には平成28年11月上旬に、それぞれ「入学手続要項」等を送付するので、その内容をよく確認して手続を行ってください。

なお、入学手続期間内に所定の入学手続を完了しなかった者は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。

(1) 入学手続期間・方法

平成28年度10月入学	平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年9月23日(金) ~28日(水)	平成28年11月14日(月) ~17日(木)	平成29年3月13日(月) ~16日(木)

入学手続は、郵送又は持参によるものとします。

- ① 郵送の場合は、入学手続書類等を本研究科所定の封筒に同封のうえ、書留郵便で**入学手続期間最終日の17時まで**に必ず到着するよう送付してください。入学手続期間後に到着したものは、いかなる理由があっても一切受理しないので郵便事情を考えて早めに送付してください。
- ② 持参の場合は、入学手続期間の9時~17時に本学入試課へ提出してください。

(2) 入学手続時に要する経費

- ① 入学料 282,000円(予定額)

ただし、本学研究科博士前期課程又は修士課程を修了し、引続き本課程に進学する者は納入不要です。

- ② 授業料 前期分 267,900円(年額 535,800円)(予定額)

入学時及び在学中に入学料・授業料改定が行われた場合には、改定時から改定後の額が適用されます。入学料・授業料の納入方法は、合格者に送付する「入学手続要項」で通知します。

- ③ その他必要な経費

傷害保険及び賠償責任保険

本学では、教育研究活動中の事故を補償するために、入学時に学生全員が何らかの傷害保険及び賠償責任保険に加入することを原則としています。

下記は、大多数の国公私立大学が日本国際教育支援協会の賛助会員となり、低廉な保険料で学生に提供している保険です。

学生教育研究災害傷害保険(通学特約付) 保険料3年間分 2,100円

学研災付帯賠償責任保険 保険料3年間分 1,020円

(3) 入学料免除・徴収猶予と授業料免除

入学料・授業料の納入が困難な者には、入学料免除・徴収猶予、授業料免除制度があります。希望者は、合格者に送付する「入学手続要項」の入学料免除・徴収猶予、授業料免除に関する欄を熟読して、入学手続前に所定の申請をしてください。

なお、上記の経済的理由によるものの他に、現職教員、企業等に勤務している社会人にとっては、大学院入学時の成績が優秀な者に対して、入学後1年間の授業料を半額免除する制度があります。

6. 生活支援制度

平成22年4月から、新たな生活支援制度が設けられ、入学者のうち、1学年20名程度に対し、入学料・授業料相当額の生活支援を行っています。給付期間は3年を限度とし、毎年更新手続きを要します。ただし、入学料を必要としない者、また、上記5.(3)の対象者及び他の機関からの生活支援を受けられる者（貸与奨学生を除く）等については、支援額を調整することがあります。

希望者は、合格者に送付する「入学手続要項」の工学研究科博士後期課程学生への生活支援制度に関する欄を熟読して、入学手続前に所定の申請をしてください。

7. 長期履修学生制度

本研究科に入学しようとする者で、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修することを希望する者は、合格者に送付する「入学手続要項」等送付時に同封する長期履修学生制度に関する通知を熟読し、入学手続前に所定の申請をしてください（外国人留学生は対象外）。

8. 課程の修了及び学位の授与

本研究科博士後期課程に3年以上在学し、主専門系8単位以上、副専門系8単位以上の合計16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すると、博士（工学）の学位が授与されます。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績をあげた者については、本課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

9. 安全保障輸出管理について

福井大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「福井大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生の受け入れに際し厳格な審査を実施しています。

規則事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

【参考】「福井大学安全保障輸出管理規程」

http://kisoku.ad.u-fukui.ac.jp/regu_search/730

10. 個人情報の利用

出願書類等に記載された個人情報（成績判定に関する情報を含む）は、①入学試験の実施、②入学手続、奨学金等の制度の運用、③入学者の受入準備、④入試の改善や志願動向等の調査、⑤入学後の履修指導や教務関係事務に使用する目的をもって福井大学が管理します。この目的の範囲内で福井大学の教職員が利用する場合及び本人の同意を得た場合のほかは、次に掲げる場合を除き、原則として、他の目的で利用又は福井大学の教職員以外に提供することはありません。

- 1) 捜査機関が捜査上必要とした場合等、行政機関等が法令に定める業務等を行うに必要な限度で利用することについて相当の理由があるときに、当該行政機関に個人情報を提供する場合
- 2) 提出された出願書類等の個人情報を電算処理する場合で、当該電算処理に係る業務を外部の業者等に行わせるために当該業者に対する個人情報の提供が必要となった場合（なお、この場合には、当該業者に対して個人情報保護法の趣旨に則った保護管理の業務を契約により課すこととなります。）
- 3) 提出された出願書類等の個人情報を、当該本人の権利利益を不当に侵害する恐れがない場合で、学術研究の目的のために提供する場合

【問い合わせ先】福井大学学務部入試課

Ⅲ. 一 般 選 抜

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第一条第二項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第十六条の二に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）
- (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、入学時までには24歳に達しているもの

※ 出願資格の(6)、(7)又は(8)によって出願する者は、出願期間前に出願資格審査が必要となるので、「出願資格審査調書」、「研究業績調書」(本研究科所定の用紙)に「修了証明書」(最終学校のもの)、「学部成績証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」((6)の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの)を添付し、以下の提出期限までに本学入試課へ提出してください。

提出期限

平成28年度10月入学 平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年7月22日(金)17時必着	平成29年1月6日(金)17時必着

なお、審査の結果は、出願期間開始日までに本人あてに通知します。

出願資格(7)に定める「文部科学大臣の指定した者」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 大学を卒業した後、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2年以上研究に従事した者であること。

- ② 著書，学術論文，学術講演，学術報告，特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

出願資格（８）に定める「本研究科において，個別の出願資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，入学時までには24歳に達しているもの」とは，次のすべての要件を満たす者です。

- ① 入学時までには，24歳に達していること。
 ② 学校教育期間と教育若しくは研究及び科学技術関係分野等に従事していた期間を合わせて18年以上あり，修士の学位を有する者と同等以上の学力を有すること。
 ③ 著書，学術論文，学術講演，学術報告，特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

2. 出願手続

(1) 出願書類の提出先

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

(2) 出願書類等

書 類 等	摘 要
入 学 志 願 票	本研究科所定の用紙に，必ず自書してください。 「入学区分」欄は，希望する入学時期を○で囲んでください(以下同じ)。
写真票・受験票	縦4 cm×横3 cmの写真（正面向き，無帽，上半身，無背景で出願前3か月以内に撮影したもの）を各1枚貼付してください。
学 位 証 明 書 又 は 修 了 証 明 書	出身大学(研究科)の修了証明書で，大学長又は研究科長等発行のもの。修了見込みの者は修了見込証明書を提出してください。なお， 本研究科修了者及び修了見込者は提出不要 です。 外国の大学を卒業した場合は，学位証明書を提出してください。
大学院成績証明書	出身大学(研究科)の成績証明書で，大学長又は研究科長等発行のもの。
学部成績証明書	出身大学（学部）の成績証明書で，大学長又は学部長等発行のもの。
修士学位論文要旨	本研究科所定の用紙に，1,800字以内で記入してください。 必要に応じて図表を組み入れても構いませんが，全体で2枚を超えないようにしてください。（図表内の文字は制限文字には数えません。） 所定の用紙に準じて作成したり，別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 修了見込みの者については，修士学位論文の研究題目とその研究の進捗状況について要約したものとします。 なお， 関連した論文の別刷又は学術講演，特許等がある場合は，そのコピーを添付 してください。
研 究 計 画 書	研究を希望するテーマあるいは分野について，その目的及び構想を，研究指導を希望する教員と相談の上，本研究科所定の用紙に，1,000字以内で記入してください。所定の用紙に準じて作成したり，別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。

書類等	摘要
検定料振込 受付証明書	<p>30,000円と本研究科所定の検定料振込依頼書を持参のうえ、最寄りの銀行等窓口で納入（郵便局、ゆうちょ銀行の場合には窓口にて口座からの振込のみ可能）し、納入時に発行される「検定料振込受付証明書」に「振込受付日付印」が押印されていることを必ず確認し、入学志願票の所定の欄にしっかりとりのり付けしてください。</p> <p>なお、検定料は、金融機関窓口受付終了時刻までに払い込んでください。ATM、インターネット、コンビニエンスストアは使用しないでください。ただし、本学研究科博士前期課程又は修士課程を修了し、引続き本課程に志願する者は納入不要です。</p> <p>【振込期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月入学 ・4月入学 [第1次募集] ・4月入学 [第2次募集] <p>平成28年8月4日(木)～25日(木) 平成29年1月20日(金)～2月10日(金)</p>
返信用封筒 (受験票等送付用)	本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、362円分の切手を貼ってください。
あて名票 (合格・入学手続通知用)	本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。
入学願書受付票 (あて名票と同一用紙)	本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。
該 当 者	住 民 票
	本邦在留の外国人は、市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したもの）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は、住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名、国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。

注1：出願資格の（2）に該当する者のうち、志願者の国籍の教育制度が日本の教育制度と異なることにより、「大学院成績証明書」及び「学部成績証明書」が提出できない場合は、その代わりに出身大学（修士の学位に相当する学位を授与した大学）の「成績証明書」を提出してください。

2：出願資格の（6）（7）又は（8）に該当する者は、出願資格審査で既に「修了証明書」、「学部成績証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」（（6）の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの）が提出されているので改めて提出する必要はありません。

（3）出願に当たっての留意事項

- ① 出願者は、出願前に、あらかじめ希望する指導教員に連絡を取っておいてください。
- ② 出願書類は黒のインクまたはボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし、かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印、サインのあるものは、コピーでの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は、どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は、次の場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
 - 1）検定料を振込んだが、本研究科に出願しなかった場合
 - 2）検定料を誤って重複して振込んだ場合

なお、返還方法については本学入試課にお問い合わせください。

⑥ 出願書類等の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

⑦ 日本語または英語以外で書かれた書類については、日本語の訳文を添付してください。

(Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other than Japanese or English.)

3. 選抜方法等

(1) 選抜方法

各講座で実施する、筆記試験（英語）、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

(2) 口述試験の内容

口述試験は、志望する研究分野に関連する科目、修士論文、研究計画書等の内容について行います。

(3) 選抜期日等

① 日 時

平成28年度10月入学 平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年9月5日(月) 筆記試験(英語) 9時~10時30分 口述試験 13時~	平成29年3月1日(水) 筆記試験(英語) 9時~10時30分 口述試験 13時~

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験場案内は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

(4) 受験上の留意事項

① 受験者は、必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合してください。

② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。

③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

IV. 社会人特別選抜

1. 社会人特別選抜の概要

(1) 趣旨

「社会人特別選抜」とは、企業等に勤務している者を、所属長からの推薦に基づいて選抜する制度のことであり、推薦を行う企業等は、在職のままの修学について応諾することを前提としています。この制度は、社会に開かれた大学院教育の一環として、社会人に対して再教育の場を提供するとともに、大学と産業界との活発な交流により、新しい学問を「新しい技術」に展開・発展させることを目的として実施するものであり、大学院設置基準第14条の特例を適用した「昼夜開講制」による教育を行うこととしています。

(2) 教育方法の特例の概要

- ① 博士後期課程3年のうち、1年目は課程修了に必要な単位の大部分を夜間、土曜日、日曜日及び集中の授業で修得し、2、3年目は昼間、夜間、土曜日、日曜日のうち指導教員の指示時間に登学し、主として博士論文作成のための研究に専念することを原則としています。ただし、講座によっては、1年目は昼間に登学して課程修了に必要な単位の修得し、2、3年目は夜間及び土曜日、日曜日に登学して博士論文作成のための研究を行うこともあるので、出願前に必ず志望講座の講座主任に問い合わせてください。
- ② 入学に当たっては、指導教員の指導の下に3年間を見通した履修計画を提出してください。なお、勤務の都合から履修計画に変更が生じた場合は、その都度申し出て許可を得てください。
- ③ 企業等における研究も、その内容が博士論文にふさわしければ研究のテーマとして認め、また、勤務先の設備を利用した研究を認めることがあります。

2. 出願資格

各種の研究機関、教育機関又は企業等に勤務する技術者又は研究者で、入学後もその身分を有し、所属長からの推薦を受けた者で、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第一条第二項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第十六条の二に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）
 (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時までには24歳に達しているもの

※ 出願資格の(6),(7)又は(8)によって出願する者は、出願期間前に出願資格審査が必要となるので、「出願資格審査調書」、「研究業績調書」(本研究科所定の用紙)に「修了証明書」(最終学校のもの)、「学部成績証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」((6)の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの)を添付し、以下の提出期限までに本学入試課へ提出してください。

提出期限

平成28年度10月入学 平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年7月22日(金)17時必着	平成29年1月6日(金)17時必着

なお、審査の結果は、出願期間開始日までに本人あてに通知します。

出願資格(7)に定める「文部科学大臣の指定した者」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 大学を卒業した後、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2年以上研究に従事した者であること。
- ② 著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

出願資格(8)に定める「本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時までには24歳に達しているもの」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 入学時までには、24歳に達していること。
- ② 学校教育期間と教育若しくは研究及び科学技術関係分野等に従事していた期間を合わせて18年以上あり、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有すること。
- ③ 著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

3. 出願手続

- (1) 出願書類の提出先

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

- (2) 出願書類等

書類等	摘要
入学志願票	本研究科所定の用紙に、必ず自書してください。 「入学区分」欄は、希望する入学時期を○で囲んでください(以下同じ)。
写真票・受験票	縦4cm×横3cmの写真(正面向き、無帽、上半身、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの)を各1枚貼付してください。
学位証明書 又は 修了証明書	出身大学(研究科)の修了証明書で、大学長又は研究科長等発行のもの。 修了見込みの者は修了見込証明書を提出してください。なお、 本研究科修了者及び修了見込者は提出不要 です。 外国の大学を卒業した場合は、学位証明書を提出してください。
大学院成績証明書	出身大学(研究科)の成績証明書で、大学長又は研究科長等発行のもの。

書 類 等	摘 要
学部成績証明書	出身大学（学部）の成績証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。
修士学位論文要旨	本研究科所定の用紙に、1,800字以内で記入してください。 必要に応じて図表を組み入れても構いませんが、全体で2枚を超えないようにしてください。（図表内の文字は制限文字には数えません。） 所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 修了見込みの者については、修士学位論文の研究題目とその研究の進捗状況について要約したものとします。 なお、 関連した論文の別刷又は学術講演、特許等がある場合は、そのコピーを添付 してください。
研究計画書	研究を希望するテーマあるいは分野について、その目的及び構想を、研究指導を希望する教員と相談の上、本研究科所定の用紙に、1,000字以内で記入してください。所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。
研究業績調書 (その1, その2)	本研究科所定の用紙に、職務内容、著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許及び実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入してください。 所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 なお、 関連した論文の別刷又は写しを添付 してください。
受験承諾書	本研究科所定の用紙により、勤務先の所属長又はこれに準ずる者が発行したもの。
検定料振込 受付証明書	30,000円 と本研究科所定の検定料振込依頼書を持参のうえ、最寄りの銀行等窓口で納入（郵便局、ゆうちょ銀行の場合には窓口にて口座からの振込のみ可能）し、納入時に発行される「検定料振込受付証明書」に「振込受付日付印」が押印されていることを必ず確認し、入学志願票の所定の欄にしっかりとのり付けしてください。 なお、検定料は、金融機関窓口受付終了時刻までに払い込んでください。ATM、インターネット、コンビニエンスストアは使用しないでください。 ただし、 本学研究科博士前期課程又は修士課程を修了し、引続き本課程に志願する者は納入不要 です。 【振込期間】 <ul style="list-style-type: none"> ・10月入学 ・4月入学 [第1次募集] ・4月入学 [第2次募集]
返信用封筒 (受験票等送付用)	本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、362円分の切手を貼ってください。
あて名票 (合格・入学手続通知用)	本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。
入学願書受付票 (あて名票と同一用紙)	本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。
推薦書 (任意提出書類)	本研究科所定の用紙により、原則として出身大学等の指導教員又は勤務先の所属長が作成し、厳封したもの。
該 当 者	住民票
	本邦在留の外国人は、市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したもの）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は、住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名、国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。

注1：出願資格の（2）に該当する者のうち、志願者の国籍の教育制度が日本の教育制度と異なることにより、「大学院成績証明書」及び「学部成績証明書」が提出できない場合は、その代わりに出身大学（修士の学位に相当する学位を授与した大学）の「成績証明書」を提出してください。

2：出願資格の（6）（7）又は（8）に該当する者は、出願資格審査で既に「修了証明書」、「学部成績証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」（（6）の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの）が提出されているので改めて提出する必要はありません。

（3）出願に当たっての留意事項

- ① 出願者は、出願前に、あらかじめ希望する指導教員に連絡を取っておいてください。
- ② 出願書類は黒のインクまたはボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし、かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印、サインのあるものは、コピーでの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は、どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は、次の場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
 - 1）検定料を振込んだが、本研究科に出願しなかった場合
 - 2）検定料を誤って重複して振込んだ場合なお、返還方法については学務部入試課に問い合わせてください。
- ⑥ 出願書類等の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- ⑦ 日本語または英語以外で書かれた書類については、日本語の訳文を添付してください。
(Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other than Japanese or English.)

4. 選抜方法等

（1）選抜方法

各講座で実施する、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

（2）口述試験の内容

口述試験は、修士論文、研究業績調書、研究計画書等の内容について行います。

（3）選抜期日等

① 日時

平成28年度10月入学 平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年9月5日(月)9時～	平成29年3月1日(水)9時～

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験場案内は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

（4）受験上の留意事項

- ① 受験者は、必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合してください。
- ② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。
- ③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

V. 外国人留学生特別選抜

日本国籍を有しない者（出願時に出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）に規定する「留学」の在留資格を有する者又は入学時に「留学」を取得できる見込みの者）で、本研究科に入学を希望する成績優秀な者について、学力検査を免除した特別選抜を実施します。

なお、この特別選抜によらず、一般選抜で出願することもできます。

1. 出願資格

日本の大学において教育を受ける目的をもって入国した外国人で、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第一条第二項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに取得見込みの者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第十六条の二に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）
- (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までに24歳に達しているもの

※ 出願資格の(6)、(7)又は(8)によって出願する者は、出願期間前に出願資格審査が必要となるので、「出願資格審査調書」、「研究業績調書」(本研究科所定の用紙)に「修了証明書」(最終学校のもの)、「学部成績証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」((6)の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの)を添付し、以下の提出期限までに本学入試課へ提出してください。

提出期限

平成28年度10月入学 平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年7月22日(金)17時必着	平成29年1月6日(金)17時必着

なお、審査の結果は、出願期間開始日までに本人あてに通知します。

出願資格（7）に定める「文部科学大臣の指定した者」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 大学を卒業した後、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2年以上研究に従事した者であること。
- ② 著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

出願資格（8）に定める「本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までには24歳に達しているもの」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 入学時までには、24歳に達していること。
- ② 学校教育期間と教育若しくは研究及び科学技術関係分野等に従事していた期間を合わせて18年以上あり、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有すること。
- ③ 著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

2. 出願手続

(1) 出願書類の提出先

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

(2) 出願書類等

書 類 等	摘 要
入 学 志 願 票	本研究科所定の用紙に、必ず自書してください。 「入学区分」欄は、希望する入学時期を○で囲んでください(以下同じ)。 欄外にある「外国人留学生特別選抜指導希望教員確認欄」に指導を希望する教員の確認印をもらうこと。ただし、学外等遠方からの志願者で確認印がもらえない場合は、教員の承諾を得た日を記載すること。
写真票・受験票	縦4cm×横3cmの写真(正面向き、無帽、上半身、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの)を各1枚貼付してください。
学 位 証 明 書 又 是 修 了 証 明 書	出身大学(研究科)の修了証明書で、大学長又は研究科長等発行のもの。 修了見込みの者は修了見込証明書を提出してください。なお、 本研究科修了者及び修了見込者は提出不要 です。 外国の大学を卒業した場合は、学位証明書を提出してください。
大学院成績証明書	出身大学(研究科)の成績証明書で、大学長又は研究科長等発行のもの。
学部成績証明書	出身大学(学部)の成績証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。
修士学位論文要旨	本研究科所定の用紙に、1,800字以内で記入してください。 必要に応じて図表を組み入れても構いませんが、全体で2枚を超えないようにしてください。(図表内の文字は制限文字には数えません)。 所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 修了見込みの者については、修士学位論文の研究題目とその研究の進捗状況について要約したものとします。 なお、 関連した論文の別刷又は学術講演、特許等がある場合は、そのコピーを添付 してください。

書類等	摘 要
研究計画書	研究を希望するテーマあるいは分野について、その目的及び構想を、研究指導を希望する教員と相談の上、本研究科所定の用紙に、1,000字以内で記入してください。所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。
検定料振込受付証明書	<p>30,000円と本研究科所定の検定料振込依頼書を持参のうえ、最寄りの銀行等窓口で納入（郵便局、ゆうちょ銀行の場合には窓口にて口座からの振込のみ可能）し、納入時に発行される「検定料振込受付証明書」に「振込受付日付印」が押印されていることを必ず確認し、入学志願票の所定の欄にしっかりとりのり付けしてください。</p> <p>なお、検定料は、金融機関窓口受付終了時刻までに払い込んでください。ATM、インターネット、コンビニエンスストアは使用しないでください。ただし、本学研究科博士前期課程又は修士課程を修了し、引続き本課程に志願する者は納入不要です。</p> <p>【振込期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月入学 ・4月入学 [第1次募集] ・4月入学 [第2次募集] <p style="text-align: right;">} 平成28年8月4日(木)～25日(木) 平成29年1月20日(金)～2月10日(金)</p>
返信用封筒 (受験票等送付用)	本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、362円分の切手を貼ってください。
あて名票 (合格・入学手続通知用)	本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。
入学願書受付票 (あて名票と同一用紙)	本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。
住 民 票	本邦在留の外国人は、市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したもの）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は、住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名、国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。
該 当 者	<p>本研究科所定の用紙に、職務内容、著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許及び実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入してください。</p> <p>所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。</p> <p>なお、関連した論文の別刷又は写しを添付してください。</p>

注1：出願資格の（2）に該当する者のうち、志願者の国籍の教育制度が日本の教育制度と異なることにより、「大学院成績証明書」及び「学部成績証明書」が提出できない場合は、その代わりに出身大学（修士の学位に相当する学位を授与した大学）の「成績証明書」を提出してください。

2：出願資格の（6）（7）又は（8）に該当する者は、出願資格審査で既に「修了証明書」、「学部成績証明書」「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」（（6）の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの）が提出されているので改めて提出する必要はありません。

(3) 出願に当たっての留意事項

- ① 出願者は、出願前に、あらかじめ希望する指導教員に連絡を取っておいてください。
- ② 出願書類は黒のインクまたはボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし、かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印、サインのあるものは、コピーでの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は、どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は、次の場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
 - 1) 検定料を振込んだが、本研究科に出願しなかった場合
 - 2) 検定料を誤って重複して振込んだ場合なお、返還方法については本学入試課に問い合わせてください。
- ⑥ 出願書類等の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- ⑦ 日本語または英語以外で書かれた書類については、日本語の訳文を添付してください。
(Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other than Japanese or English.)

3. 選抜方法等

(1) 選抜方法

各講座で実施する、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

(2) 口述試験の内容

口述試験は、修士論文、研究計画書等の内容及び外国語（英語、日本語のうちから母語を除く1か国語）について行います。

(3) 選抜期日等

① 日 時

平成28年度10月入学 平成29年度4月入学 [第1次募集]	平成29年度4月入学 [第2次募集]
平成28年9月5日(月)9時～	平成29年3月1日(水)9時～

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験場案内は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

(4) 受験上の留意事項

- ① 受験者は、必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合してください。
- ② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。
- ③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

Ⅵ. 工学研究科博士後期課程案内

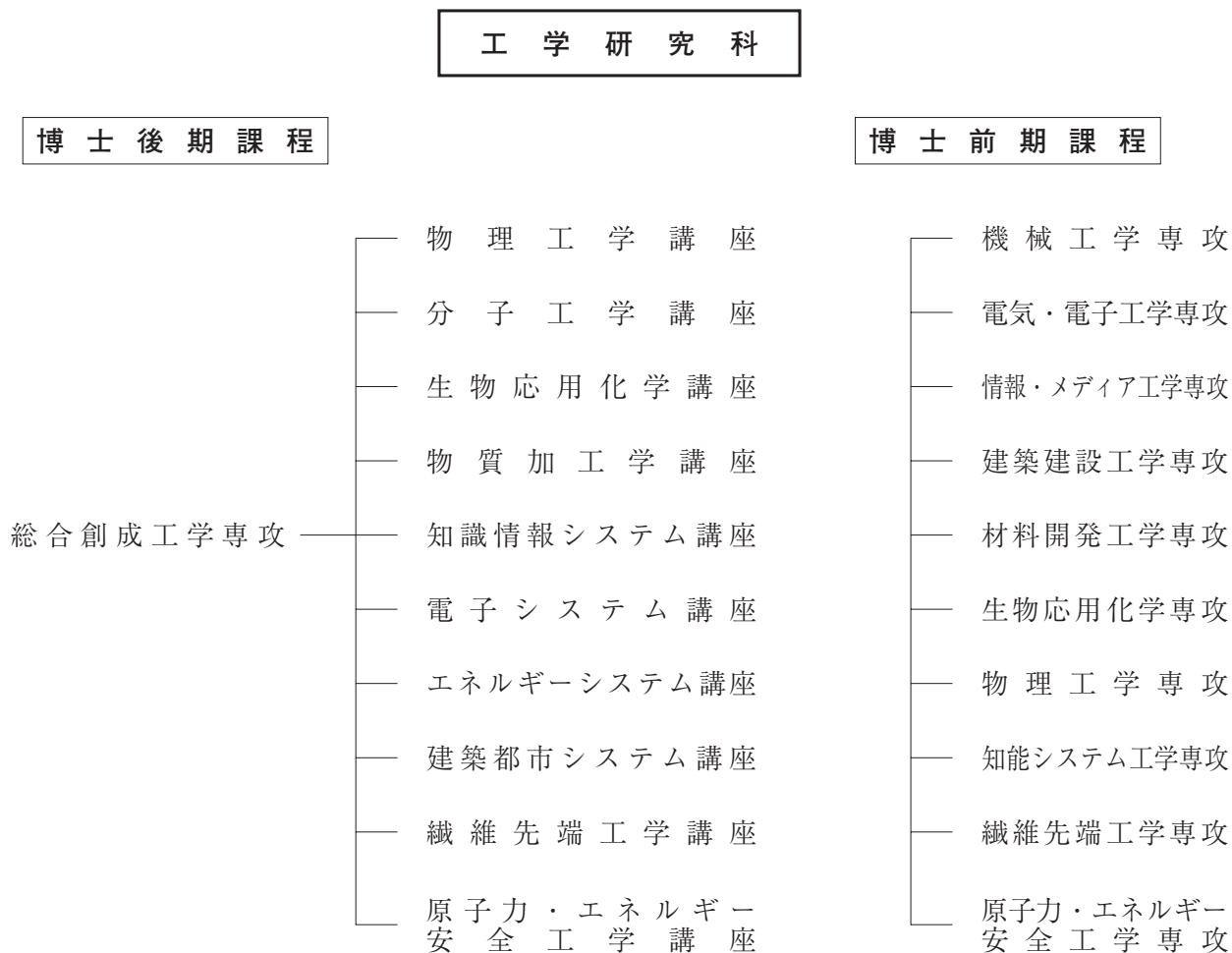
1. 目的

近年のわが国の産業界で進展している技術革新を支えている工学は、それぞれの分野の分化、深化とともに、互いに他の分野と影響しあって発展してきた。一方では、多様な科学技術が社会のあらゆるシステムや人間の生活の中にも取り込まれつつある。更に、科学技術が自然環境や人間社会にもたらした大きな変貌への対応も迫られている。

このような状況に応じて、本学大学院工学研究科博士後期課程は自己の専門分野やその関連分野における優れた研究能力を備えているばかりでなく、社会の広い分野で活躍し得る広い視野と柔軟性を持つ高度な技術者・研究者を養成するため設置された。博士前期課程（修士課程）修了者の進学者の受入れとともに、社会人を再教育のため現職のまま受入れることも重要な目的の一つとしている。

2. 構成

本研究科の博士前期課程は、工学部8学科の上に積み上げる方式とし、学部教育との関連性を持たせるとともに、多様な経歴の入学にも対応出来るよう大学院としての系統的カリキュラムを組んでいる。また、博士後期課程は新しい工学の視点より、総合化と弾力化を考慮しながら博士前期課程の専攻の枠を外して1専攻に統合されている。これにより、専攻間の壁が無くなり、学術的研究や流動的で柔軟性に富んだ研究が可能になる。



3. 総合創成工学専攻の概要

専門分野における深い知識とともに、広い知識と見識に支えられた能力を発揮し、現場におけるさまざまな問題・課題をあるいは解決に向けて積極的に取り組むことのできる能力を育成する。

それぞれの専門分野あるいはその関連分野で活躍すると同時に、新しい分野を開拓し、自ら積極的に新技術の研究・開発に取り組むことのできる能力を育成する。

高度専門技術者・研究者として守るべき倫理や負うべき社会的責任並びに起業の可能性を追究する意欲や国際的な環境での事業の開拓などに取り組む積極性を涵養する。

4. 各講座の指導教員及び授業科目のテーマ等

講座	内 容	指 導 教 員	授業科目のテーマ
物理工学講座	<p>工学において、物理的手法は不可欠なものであり、様々な物質系が示す物理現象はエレクトロニクスをはじめ現代工学の基礎となっている。</p> <p>本講座では、数理物理、量子物理、電磁物理、凝縮系物理の各分野において、物質を構成する分子、原子、原子核、素粒子とその集合系における物理的諸性質の研究を通じ、工学における数理的、物理的手法の開発と、新しい材料や革新的な技術への応用に関する教育と研究を行う。</p>	<p>小川 勇 小野田信春 菊池 彦光 齊藤 輝雄 高木 丈夫 谷 正彦 橋本 貴明 平田 隆幸 堀邊 稔 光藤誠太郎 保倉 理美 吉田 拓生 熊倉 光孝 古閑 義之 芹生 正史 高田 宗樹 田嶋 直樹 立松 芳典</p>	<p>解析学 代数学 幾何学 原子核物理学 素粒子物理学 量子凝縮系 場の理論 時空物理学 電磁物理学 マイクロ波工学Ⅰ マイクロ波工学Ⅱ プラズマ工学 光物性 高エネルギー物理学 凝縮系運動論 凝縮系量子スピン論 量子光学 非線形物理学 確率過程論 理工学基礎</p>
分子工学講座	<p>あらゆる分野で急速に展開している技術革新に各種の新素材が果たしている役割は大きい。</p> <p>本講座では、無機ファイン材料の分子設計とその電気化学的性質や電磁氣的性質及び新しい電気伝導材料の電気物性、新規な機能を発現する有機ケミカルズの分子設計と合成、機能性高分子材料の合成や分子構造と機能の発現機構の解明及び高分子製造プロセスの化学工学的解析、高分子材料の構造の制御方法と物性・機能の関係を明らかにする高分子材料設計や高分子物性の理論的解明等の他に、化学物質の環境安全性や汚染防止等に関する教育と研究を行う。</p>	<p>葛生 伸 佐々木 隆 徳永 雄次 飛田 英孝 橋本 保 米沢 晋 内村 智博 川崎 常臣 古石 貴裕 阪口 壽一 庄司 英一 瀬 和則 高橋 一朗 田中 穰 玉井 良則 陳 競鷹 西海 豊彦 吉見 泰治</p>	<p>環境計測 電気化学デバイス工学 電気化学 界面物理化学 有機合成化学 有機分子設計論 超分子化学 有機光化学 機能分子設計論 高分子材料合成 高分子反応プロセス工学 多相系高分子設計 機能高分子創製 ランダム系物性論 高分子結晶形成論 高分子力学物性論 高分子計算機科学 分子シミュレーション 電子移動反応 分子工学基礎</p>

講座	内 容	指 導 教 員	授業科目のテーマ
生物応用化学講座	<p>近年のライフサイエンスの急速な進歩は、生物機能の分子レベルでの解明を可能にし、その応用は21世紀において大きく発展している。</p> <p>本講座では、生物機能を物理的・化学的立場より捉え、生体関連機能性高分子の合成と応用、生体物質の構造と機能解明に必要な化学分光機器の開発と利用、生体膜の能動輸送性、電子移送機構などの解析とその人工的構築、生物機能の分析化学的検討、酵素、核酸などの生体高分子及びオルガネラ、分子複合体等の生体触媒システムの構造や生化学反応プロセス解析とその工業的応用など生物機能の解明と利用や模倣に関する教育と研究を行う。</p>	<p>内田 博之 櫻井 明彦 前田 史郎 前田 寧 沖 昌也 杉原 伸治 寺田 聡</p>	<p>磁気共鳴分光学 バイオミメティック高分子化学 生体高分子システム化学 生物化学工学 細胞工学 微生物遺伝子資源 応用微生物学 エピジェネティクス 生物応用化学基礎</p>
物質加工学講座	<p>物質から多様な社会的ニーズに対応した工業製品を生産するには、物質が有する機能性、加工性、経済性、安全性などの特性を最大限に活用する利用技術を確立することが望まれている。</p> <p>本講座では、高機能化、高知能化された機械・構造物を実現化するための材料の静的、動的挙動の解明、材料の強度と破壊の評価の確立、材料の複合化による新材料の創製、高度な安全性、機能性を持つ製品を最適設計するための手法、更にこれらを、高精度で効率よく創製するための生産加工手法の確立など物質の応用技術に関する教育と研究を行う。</p>	<p>大津 雅亮 竹下 晋正</p>	<p>融体加工学 表面強度論 微小機械設計システム 加工システム論 物質加工学基礎</p>
知識情報システム講座	<p>情報の種類・形態の多様化とともに、情報システムのアーキテクチャや処理法は複雑・高度なものに発展している。</p> <p>本講座ではこの発展形態である知識情報システムの構築法と、アーキテクチャ、アルゴリズム、応用に関する教育と研究を行う。その内容は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新たな情報処理を可能にする高性能計算機ハードウェアの素子とアーキテクチャ及び設計法 2) 高効率、高信頼処理を実現する各種システムソフトウェアのアーキテクチャとアルゴリズム及び設計法 3) 数学ソフトウェアや自然言語処理など高度な応用アルゴリズム 4) 知識工学の基本原則と自然言語理解を含む高度ヒューマン・インタフェースへの応用 5) 音声情報の分析と認識 6) 生体の認識・学習機構 7) 人間情報システム 	<p>細田 陽介 村瀬 一之 森 眞一郎 山上 智幸 山田 徳史 吉田 俊之 黒岩 丈介 橋 拓至 東海 彰吾 長宗 高樹</p>	<p>並列計算機応用 量子情報 情報システム設計論 逆問題 人工知能 ネットワークアーキテクチャ 情報ベースシステム 理論情報科学 形式手法 人間情報システム バイオメカニクス 多視点映像処理 聴覚情報処理 信号処理応用 ユニバーサルヒューマンインタフェース 生体情報 分子細胞生物学 多次元情報処理 バイオシグナリング 知識情報システム基礎</p>

講座	内 容	指 導 教 員	授業科目のテーマ
電子システム講座	<p>次世代情報化社会の実現のためには、高性能光・電子デバイス、パワー・制御システム、画像システム、通信システム並びに生体システムなどを有機的、かつ統一的に解析、設計、運用するための技術の確立が強く望まれている。</p> <p>本講座では、電子と光の相互作用を応用した高性能な光デバイスの開発設計、新材料や新原理に基づく電子デバイスの開発設計、高効率エネルギー変換デバイスの開発設計、電力系統やパワーエレクトロニクス系の高性能制御と故障診断法の確立、画像情報の認識・理解・表示並びにそれらを表現する専用装置の開発研究、マルチメディア高度通信システムのための情報通信技術、情報セキュリティ、及び生体工学、医療工学などに関する教育と研究を行う。</p>	<p>小原 敦美 葛原 正明 田岡 久雄 橋本 明弘 廣瀬 勝一 福井 一俊 藤元 美俊 岩田 賢一 王 栄龍 塩島 謙次 牧野 哲征 山本 晃司</p>	<p>光誘起動力学 光電子分光学 半導体デバイス設計論 半導体プロセス エネルギー変換材料工学 光エネルギー変換工学 電気エネルギーシステム 適応信号処理 ソフトコンピューティング 非線形回路・システム論 情報幾何学 情報理論 誤り制御符号理論 符号と暗号の数理 電子システム基礎</p>
エネルギーシステム講座	<p>社会の発展に伴ってエネルギーの消費は増大の一途をたどっているが、資源の枯渇、地球規模の環境問題を併発するようになっており、今後一層の効率的、総合的な利用法とコンピュータ技術を駆使した高度な機能を持つエネルギー創出システムの開発が強く望まれている。</p> <p>本講座では、熱、流体、音響エネルギー及び力学的エネルギーの複雑な現象解明のための数値解析法と画像処理、それに基づくエネルギーの貯蔵、変換、制御システムの最適設計、コンピュータ支援によるエネルギー利用システムの最適制御とインテリジェント化に関する諸方策の確立などにより省資源、省エネルギーを考慮した効率的なシステムの構成技術を開発し、これを通して社会的要請に対処した高度の知識を有する技術者を育成する。</p>	<p>太田 淳一 鞍谷 文保 永井 二郎 浪花 智英 藤垣 元治 山田 泰弘 川谷 亮治</p>	<p>構造ダイナミクス 不規則振動論 熱流体エネルギー輸送論 流れの数値シミュレーション論 乱流理論 熱物質移動論 機械システム最適化論 線形システム論 力触覚インターフェース 知的制御論 移動知能システム 確率ロボティクス論 光計測システム メカニカルシステム基礎</p>
建築都市システム講座	<p>豊かな生活環境は、科学技術によって安全で機能的であると同時に、自然環境の中に融合された文化的環境でなければならない。</p> <p>本講座では、建築から都市、さらに広い地域にわたる環境を自然科学的、人文社会科学的、歴史的方法によって解明し、設計方法によって総合するためのシステムを究明する。すなわち構造機能、住基盤防災、快適性工学、環境形成、地域生活空間計画などの幅広い分野を統合的に教育研究する。</p>	<p>明石 行生 石川浩一郎 川上 洋司 小嶋 啓介 野嶋 慎二 松下 聡</p>	<p>複合構造材料論 構造システム設計論 耐久設計論 地盤防災工学 地震防災工学 環境心理 光環境工学 環境空間思潮論 交通システム論 地域基盤整備論 都市空間デザイン論 建築建設基礎</p>

講座	内 容	指 導 教 員	授 業 科 目 の テ ー マ
繊維先端工学講座	<p>従来、繊維は衣料用目的が主体を占めてきた。しかし、現在、日本で生産される繊維の70%以上が非衣料用用途に用いられている。高強度で、高い柔軟性を有し、それらの性質を生かし、建築・土木用、メディカル用、IT・通信用、自動車・飛行機・船舶などの主要材料用、宇宙や海洋開発用材料などとして、ありとあらゆる分野に繊維が欠かせない材料として利用されだした。新しい繊維・高分子素材の開発から、既存の繊維に新たな機能を賦与する加工技術の開発、石油や石炭などの化石原料に頼らない繊維材料の開発など学問的に展開すべきことは非常に多く、また今後も日本が技術立国として生き延びて行くためには、繊維に係わる産業は欠かせない分野である。</p> <p>本講座はこの領域に関する教育・研究を担当する。</p>	末 信一郎 田上 秀一 中根 幸治 久田 研次	繊維表面改質 生体材料工学 生体高分子応用工学 繊維界面物理化学 界面コロイド化学 分子物理化学 先端繊維科学 繊維・高分子成形加工学 繊維先端工学基礎
原子力・エネルギー安全工学講座	<p>原子力・エネルギー安全工学講座は、日本のエネルギー事情と原子力エネルギーの役割の重要性、原子力の環境および社会における受容性、原子力技術者の不足という現実を鑑み、「安全と共生」をキーワードとして、原子力とエネルギーにおける諸課題に関する研究を進展させ、同時に、この分野で活躍できる高い倫理観を持つ高度専門技術者を育成する。特に、多くの原子力発電所が立地する福井県に位置する本学の立場を生かして、より実践的な研究・教育を行う。</p>	小高 知宏 金邊 忠 玉川 洋一 仁木 秀明 飯井 俊行 有田 裕二 泉 佳伸 宇埜 正美 福元 謙一 安田 仲宏 渡辺 正 小川 泉 川本 義海 大堀 道広	原子炉熱流動安全工学 原子力燃料・材料学 原子力防災・危機管理学 原子力プラント健全性評価工学 原子炉材料学 原子炉構造工学 原子力構造最適設計 量子誘起動力学 量子応用分光学 放射線計測 生体情報安全工学 知能モデリング論 共生型地域形成論 原子力・エネルギー安全工学基礎

注：授業科目のテーマ及び指導教員は予定であり、今後変更の可能性もあります。

5. Global Engineering Program for Research and Development (GEP for R&D) 「国際技術研究者育成コースカリキュラム」

本カリキュラムは、講義・演習・研究発表等を英語で行い、留学生と日本人学生が英語を通じて共に学ぶ場を提供する。

学生は、所属講座の英語カリキュラム及びこれに関連する授業科目を履修することができる。

一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜により博士後期課程に入学した者が、本コースカリキュラムの履修を希望する場合は、入学手続後に指導教員と相談の上、指導教員の推薦を得て所定の手続を行うこと。

Curriculum is subject to change.

カリキュラムについては変更になる場合があります。

Category 科目区分	Course Title 授業科目
Open Education Courses (オープンエデュケーション科目)	Introduction to Graduate Studies I (専門特別講義Ⅰ)
	Introduction to Graduate Studies II (専門特別講義Ⅱ)
	Introduction to Graduate Studies III (専門特別講義Ⅲ)
Practical Training/ International Experience Courses (実践科目)	Long-term Internship (長期インターンシップ)
	Advanced Course of Intellectual Property and Patent (知的財産—特許コース特論—)
	Business Strategy (企業戦略概論)
	Global Strategy and Open Innovation (国際化戦略とオープンイノベーション)
	Roadmap of Research and Development (技術開発のロードマップ)
	On the Tutorial Training (OTT)
	Seminar for Global Marketing Research (グローバル市場探索演習)
	Project Incubation Program (プロジェクトインキュベーション経験プログラム)
	On the Consulting Training (OCT)
	Overseas Lectures and Exercises (海外特別講義・演習)
	Overseas Presentations and Discussions (海外研究プレゼンテーション・討論)
	Overseas Culture, Custom, and Communication (海外文化・生活・コミュニケーション)
	Special Lecture on International Technology and Management (海外技術経営論)
	Overseas Business Internship (海外企業インターンシップ)
	Creative System Design (創造システムデザイン)
	Project Based Learning (PBL)
	Graduate School Short-term Internship Abroad A (大学院海外短期インターンシップA)
Graduate School Short-term Internship Abroad B (大学院海外短期インターンシップB)	
Debate Courses (討論形式科目)	Critical Eye for Technologies I (専門技術と社会Ⅰ)
	Critical Eye for Technologies II (専門技術と社会Ⅱ)
	Critical Eye for Technologies III (専門技術と社会Ⅲ)
Advanced Courses (専門科目)	※ As indicated in the Attached List ※別表のとおり
Research Seminar (研究ゼミナール)	Research Seminar in Major Field I (主専門研究ゼミナールⅠ)
	Research Seminar in Major Field II (主専門研究ゼミナールⅡ)
	Research Seminar in Sub-Major Field (副専門研究ゼミナール)
Japanese (日本語)	Japanese I (日本語Ⅰ)
	Japanese II (日本語Ⅱ)
	Japanese III (日本語Ⅲ)
	Japanese IV (日本語Ⅳ)


※Attached List 別表

Category 科目区分	Course Title 授業科目
Advanced Courses (専門科目)	Advanced Mathematical Physics (数理物理学特論)
	Advanced Quantum Physics (量子物理学特論)
	Advanced Electromagnetic Physics (電磁物理学特論)
	Advanced Condensed Matter Physics (凝縮系物理学特論)
	Advanced Course of Inorganic Materials (無機ファイン材料特論)
	Organic Molecular Materials (有機分子設計特論)
	Polymer Synthesis (機能性高分子工学特論)
	Polymer Engineering (高分子材料設計特論)
	Advanced Polymer Science : Function & Chemistry (機能高分子化学特論)
	Advanced Applied Biotechnology (生命応用工学特論)
	Advanced Molecular Biology (分子生物化学特論)
	Advanced Physical and Engineering Properties of Materials (材料物性工学特論)
	Advanced Structural Materials Engineering (構造材料工学特論)
	Advanced Optimum Design Engineering (最適設計工学特論)
	Advanced Production and Processing Engineering (生産加工工学特論)
	Computers and Software I (計算機構成・ソフトウェア科学工学特論Ⅰ)
	Computers and Software II (計算機構成・ソフトウェア科学工学特論Ⅱ)
	Cognition and Human Interface I (認知情報・ヒューマンインタフェース特論Ⅰ)
	Cognition and Human Interface II (認知情報・ヒューマンインタフェース特論Ⅱ)
	Optical and Electronic Devices, Adv. (光・電子デバイス特論)
	Electrical Power Control, Adv. (電子制御特論)
	Electronic Systems Engineering, Adv. (電子システム工学特論)
	Communication Systems, Adv. (通信システム特論)
	Advanced Machine Dynamics (機械ダイナミクス特論)
	Advanced Engineering Fluid Mechanics for Systems (流体システム特論)
	Advanced Thermal System (熱システム特論)
	Advanced System Control (システム制御特論)
	Advanced Robot Control (ロボット制御特論)
	Building Structural System Design (建築構造システム論)
	Life Infrastructure and Disaster Prevention (住基盤防災特論)
	Architectural and Urban Comfort Engineering (建築都市快適論)
	Theory, History, and Engineering of Environment Formation (環境形成論特論)
	Planning and Design for Urban and Community Building (生活空間計画特論)
	Textile Engineering (テキスタイル工学特論)
	Biomimetic Engineering, Adv. (バイオミメティック工学特論)
	Functional Fiber, Advance (繊維機能科学特論)
	Advanced Fiber・Polymer Materials Engineering (繊維・高分子材料工学特論)
	Advanced Fiber・Polymer Processing (繊維・高分子加工工学特論)
	Advanced Energy Safety and Symbiosis Engineering I (エネルギー安全工学特論Ⅰ)
	Advanced Energy Safety and Symbiosis Engineering II (エネルギー安全工学特論Ⅱ)
	Advanced Nuclear Engineering I (原子力工学特論Ⅰ)
	Advanced Nuclear Engineering II (原子力工学特論Ⅱ)

Ⅶ. 学生募集要項等の請求方法

1. テレメールによる請求方法

(1) 福井大学ホームページ（パソコン）からの請求方法

本学ホームページ（<http://www.u-fukui.ac.jp/>）「受験生の方へ」内の「入試資料の請求方法」から  テレメールにアクセスしてください。

※本学ホームページ内の「受験生の方へ」では大学の概要や入試情報等も紹介しています。

(2) テレメールホームページ（パソコン・携帯電話・スマートフォン）または自動音声応答電話による請求方法

①下記のいずれかの方法で  テレメールにアクセスしてください。

インターネット (パソコン・携帯電話・スマートフォン)	http://telemail.jp	 携帯電話・スマートフォンなら、QRコードを読み取るだけでアクセスできます。
自動音声応答電話	IP電話 050-8601-0101 (24時間受付) ※一般電話回線からの通話料金は、日本全国どこからでも3分毎に約11円です。 ※住所・氏名等登録時は、ゆっくり・はっきりと話してください。 登録された音声不鮮明な場合は、電話で住所・名前を確認することがありますので、電話番号は必ず登録してください。	

②請求を希望する資料請求番号（6桁）を入力してください。

資 料 名	資料請求番号
工学研究科（博士後期課程）募集要項	5 4 3 4 2 2
工学研究科案内（博士後期課程）	5 4 9 5 9 2


③ガイダンスに従って申し込んでください。

・請求してから2～3日後に資料が届きます。

受付時間や地域、配達事情によっては、到着までに4日以上かかる場合もあります。

・送料は資料に同封されている支払方法に従い、表示料金を支払ってください。

（支払いに際して手数料が別途必要になります。）

・  テレメールでの請求についての問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102（9：30～18：00）

2. 大学への請求方法（できるだけ テレメールで請求してください。）

「博士後期課程学生募集要項請求」と明記し、送付先（請求者）の郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、学務部入試課へメールまたはFAXにより申し込んでください。

ゆうメールの着払いで送付します。

E-mail：g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

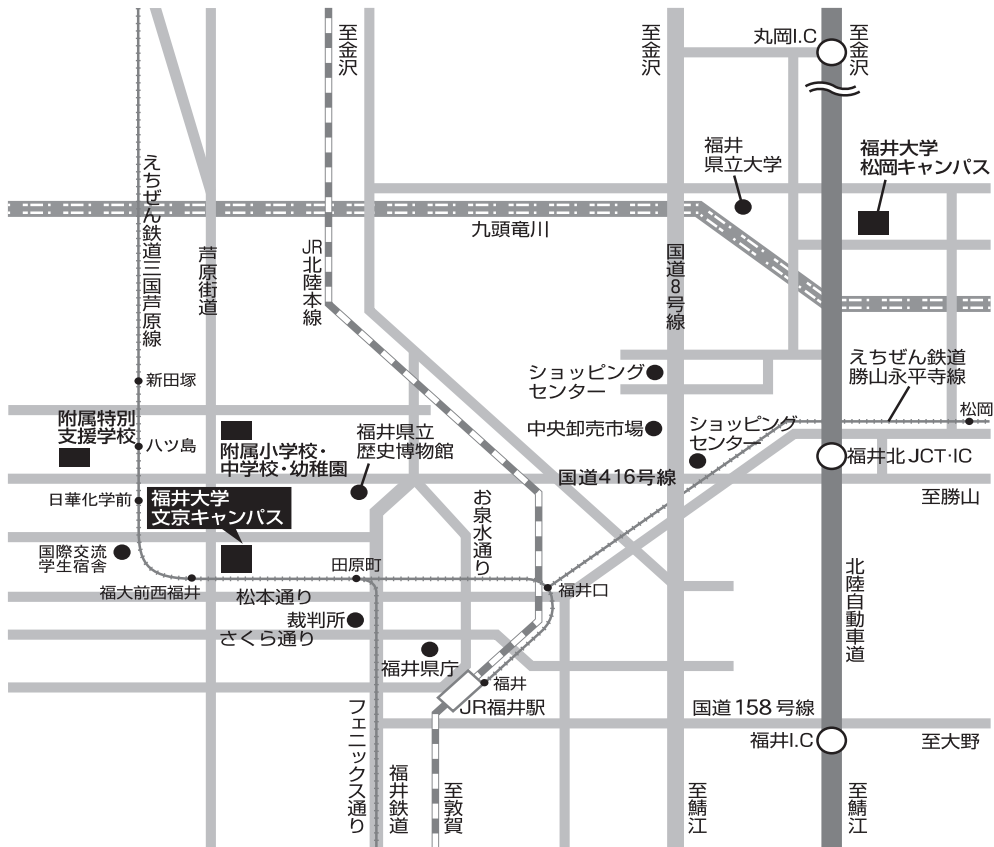
FAX：0776-27-8010

3. 窓口での請求方法

本学窓口で配付します。（祝日を除く月～金曜日の9：00～17：00）

文京キャンパス：福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

福井大学文京キャンパス位置図



文京キャンパスへの経路

- バス J R 福井駅-(約10分)-福井大学前下車
[J R 福井駅西口から出て市内バス乗り場2番から]
<http://bus.keifuku.co.jp/>
- 鉄道 えちぜん鉄道福井駅-福大前西福井駅下車
[J R 福井駅東口から出て三国芦原線で約10分]
*西口前の福井鉄道(路面電車)ではありません。
<http://www.echizen-tetudo.co.jp/>
- タクシー J R 福井駅-(約10分)-福井大学文京下車
[必ず「福井大学文京キャンパス」と伝えてください]
- 北陸自動車道 福井北JCT・ICから国道416号線で西へ約7km
福井ICから国道158号線で西へ約8km

交通機関(時刻表等)

J R 西日本	http://www.jr-odekake.net/
京福バス	http://bus.keifuku.co.jp/
えちぜん鉄道	http://www.echizen-tetudo.co.jp/

福井へのアクセス

大阪・京都方面から

- JRで 大阪・京都-湖西線経由-福井
(特急で、京都から約1時間30分、大阪から約2時間)
- 自動車で 大阪・京都-<名神>-米原JCT-<北陸>-福井・福井北JCT・IC
(京都から約2時間、大阪から約2時間30分)
- 高速バスで 大阪・京都-<名神・北陸>-福井
(京都から約2時間30分、大阪から約3時間30分)

名古屋・静岡方面から

- JRで 名古屋・静岡-米原経由-福井
(名古屋から新幹線・特急で約1時間40分、特急で約2時間)
- 自動車で 名古屋-<名神>-米原JCT-<北陸>-福井・福井北JCT・IC (約2時間)
- 高速バスで 名古屋-<名神・北陸>-福井(約2時間50分)

東京方面から

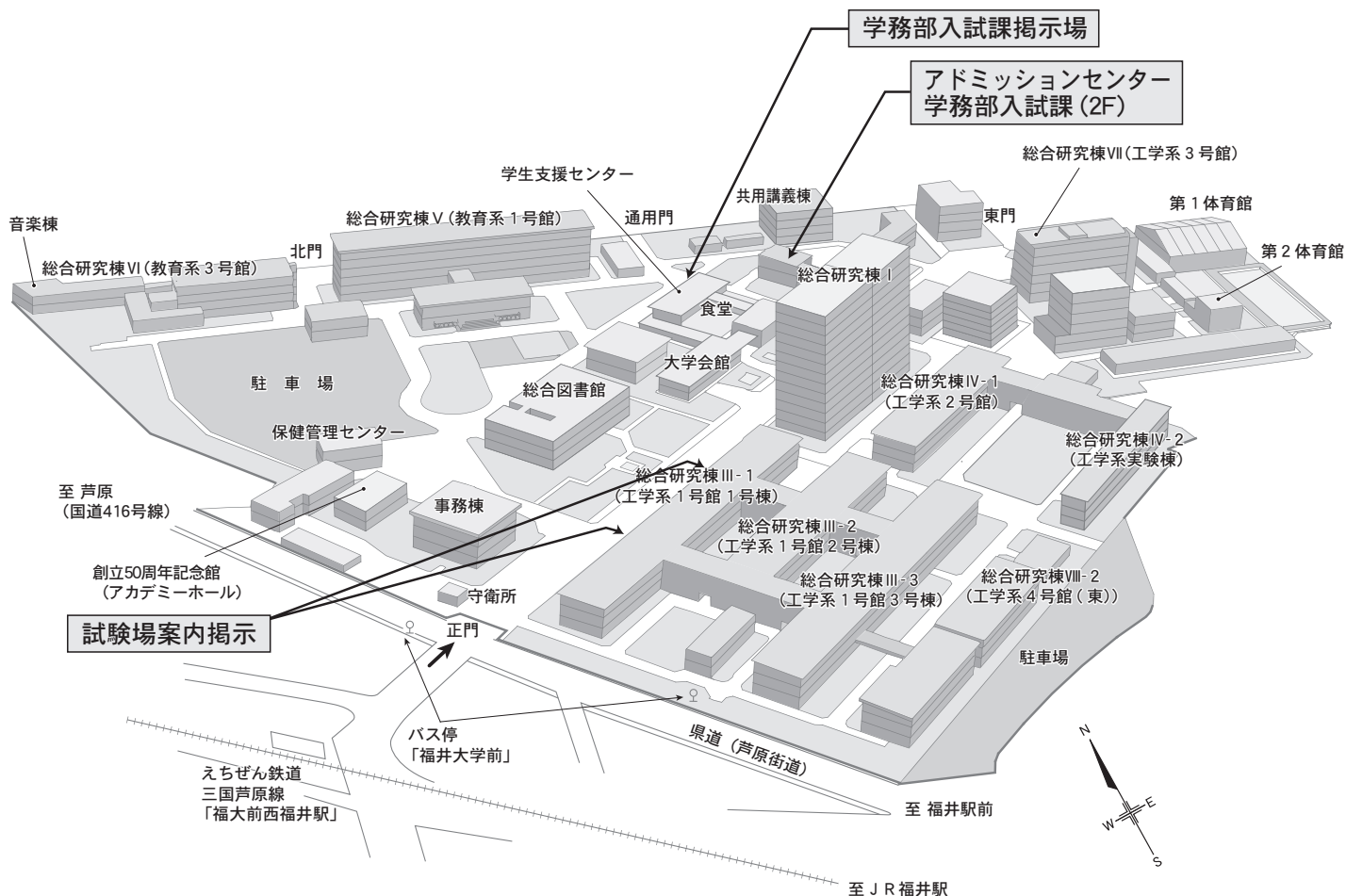
- 飛行機で 東京羽田-小松空港(1時間)-福井(連絡バス1時間)
- JRで 東京-米原経由-福井(新幹線・特急3時間30分)
- 自動車で 東京-<東名・名神>-米原JCT-<北陸>-福井・福井北JCT・IC
(約6時間30分)
※高速バスもあります。

金沢・新潟方面から

- JRで 金沢・新潟-福井(金沢から特急で約40分)
- 自動車で 金沢-<北陸>-丸岡・福井IC (約1時間)



福井大学建物配置図 (文京キャンパス)



《受験に関する問い合わせ先》

福井大学学務部入試課

〒910-8507 福井市文京 3-9-1

TEL 0776-27-9927

<注意>

- ・本入試に関するすべての事項は、志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。
- ・この学生募集要項以外に重要な通知がある場合は、本学ホームページの「受験生の方へ」内でお知らせします。
[福井大学ホームページ <http://www.u-fukui.ac.jp/>]
- ・電話での照会は、祝日及び年末年始を除く、月～金曜日の9:00～17:00に、この学生募集要項を手元に置き、必ず志願者本人が行ってください。